

幼児教育を学ぶ学生の保育実践力を養う教材研究の方法と課題

碓井幸子

Methods and tasks of teaching materials research to cultivate childcare practical skills of students studying early childhood education

SACHIKO USUI

要旨

教材研究は保育内容の実現であると考え、そして、教材研究に基づいた保育は、乳児の学習意欲や問題解決能力の向上など、幼児の学びや生活を保証する実践になるのではないかと考える。また、養成期の学生にとって教材研究をすることは、幼児の内面理解と認知等の成長を理解する手立てとなるのではないかと考えた。そこで、幼児教育を目指す学生の幼稚園教育実習での指導計画の基本的考え方に教材研究を取り入れ、幼稚園教育前後の学生の変容から①幼児を理解するための教材研究②幼稚園教育の内容を具体化するための教材研究の有効性と問題点を検討する。

キーワード：幼稚園教育実習、教材研究、幼児理解、保育内容、保育実践力

1、はじめに

幼児教育における教材は、幼児の遊びを誘発し活動の拠点となる。教材は活動そのものであり、保育内容のねらいを総合的に達成するそのものとなる。1) そのため、広義には人間関係や環境までも含まれる。

教材研究は、①保育者の教育的意図を幼児に働きかけるために、媒体となる教材の使い方を具体的に構想する。②教材を十分に理解(面白さ等の理解)し、その教材で遊ぶ幼児の内面を考えることにより、幼児の見方や関わり方がよりの確となる。と考えられることから教材研究は、学生の保育実践の学びの機会となる実習において、保育指導案を立案や幼児理解を深めるための手立てとなると考えられる。幼児教育における教材研究と保育力に関する論文はある。その中で、学生の教材研究の有効性について、高橋、大龍、今井は「教育実習における事前準備の習熟度と事後の自己評価」において、教材研究を習熟している学生は教育実習体験により、保育者の指導の意図や援助の仕方の把握、子どもの認識や予測においての達成度が高いと述べている。2) しかし、有効とする保育技術に関する教材研究(紙芝居、手遊びピアノ等)の教材研究による効果は明記されているが、保育者の指導の意図や援助の仕方の把握、子どもの認識や予測についての教材研究の内容や方法については述べられていない。

学生が実習期間の中で、保育者の指導意図や援助把握、子ども理解や予測の効果を上げるためには、事前準備が不可欠である。実習後の幼稚園からの評価にも教材研究の重要性が書かれている。具体的にどのような指導がされているかと言うと、「子どもの実態に合わせて教具の数や種類を考える」「視覚教材を使うと子どもの集中力が増す」などであった。しかし、教材研究は、保育内容そのものであり、幼児の意欲や問いなどを引き出すものであり、教材を熟知することは保育の見方を自覚化しそれ

により子どもの育ちを保障するものと考えことから、教材研究の方法を試み有効性や課題を探りたいと考えた。

そこで、本研究は、学生の教材研究に対する実態を調査し課題を探り、実習準備の段階で、少しでも幼稚園教育要領が示す保育内容及びねらいと幼児の姿が結びつく教材研究、予想される幼児の姿から具体的な方法を考える教材研究の方法を、筆者担当科目「保育内容指導法」（2年生春期2単位演習）において、同期間にある教育実習の機会を活用し指導計画を考えるプロセスに教材研究を取り入れることとした。そして、事前に教材研究をおこなうことにより学生の実習事後に

どのような気持ちの変化が起こるのかアンケートをおこない、教材研究の有効性と課題を考えたい。

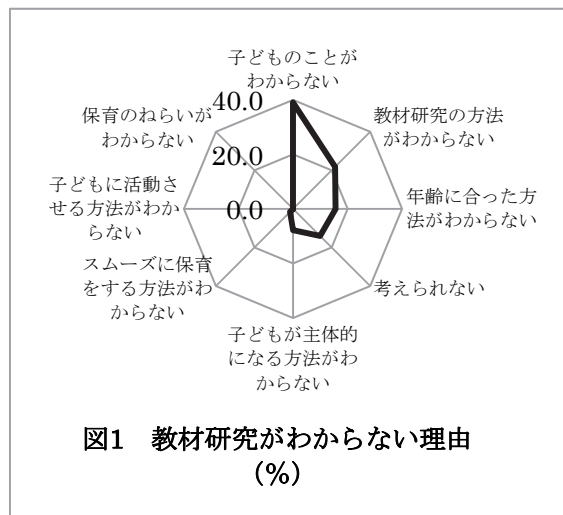


図1 教材研究がわからない理由 (%)

2、学生の教材研究の実態と課題

(1) 学生の教材研究の実態アンケートについて

学生の教材研究に対する実態と課題を探るために、N県S短期大学幼児教育科 2年生 122人に2015年4月教材研究に関する学習前と、2015年6月幼稚園教育実習終了1週間後の2回、教材研究について記述でのアンケートを行い学生の教材研究に対する意識調査を行った。4月アンケート回収 121人 (99.2%) 6月 114人 (93.4%)

アンケートの分析方法は、問いに対してできる限り簡潔に記述してもらい、記述後各自にもう一度読んでもらい、自分の最も言いたいところに下線を引いてもらった。学生の下線の部分を表に書き出し共通の物をまとめて傾向を探った。

アンケート例 (A学生)

問い：向上や変化が「あった」あるいは「なかった」点を具体的に教えてください

予想される幼児の言動がより具体的考えられたので自信を持って子どもの前に立つことができた

問い：それはどうして向上や変化となったのか、ならなかったのかその理由を教えてください

いろいろなこどもの姿を想像しながら教材研究をすることで、事前にミスに気づいたり、言葉かけや対応も考えられるから

(2) 学生の教材研究の実態と課題

1) 教材研究がわからない

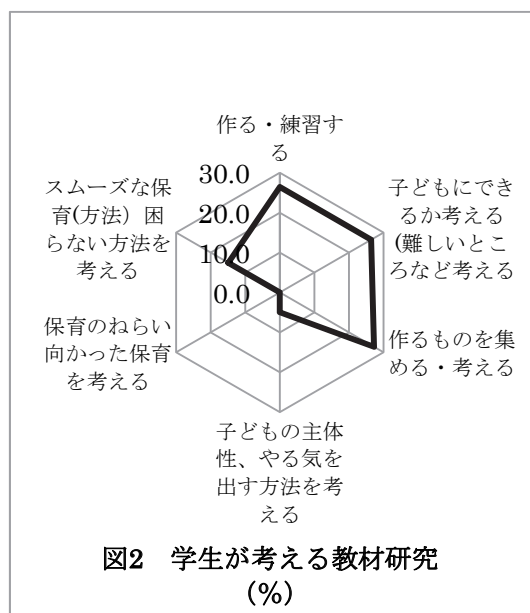
学生に教材研究の方法を聞くと、53.0%の学生が、教材研究の方法がわからない。一方41.0%の学生は、教材研究の方法についてわかっているし、教材研究について困っていることはないという回答であった。教材研究がわからない学生の最も多い理由は、子どものことがわからない (39.1%)、教材研究の方法がわからない (21.9%)、子どもの年齢に合うように考えられない (14.1%)、考えられない (7.8%)、であった。図1

2) 手段や成果物としての教材

教材研究の学習前に、「教材研究とは、どのようなことをすることですか」と質問したところ、作る

物を集めたり考える (27.3%)、練習したり作る (やってみる) こと (26.4%)、子どもにできるか(難しいところはどこか)考えること (26.4%)、スムーズに保育ができるように考える (14.9%) といった回答が多かった。図2 また、教材研究がわからない学生は、何を子どもにさせたいのか情報や資料を集めることからであり、教材研究について困っていないと回答した学生は、情報や資料を集めて事前に練習することと考えている。

教材は幼児の活動そのものであり、教材のかかわりによって「身体知」を通して様々に学び獲得する。しかし、学生の考える教材研究は、担当する時間に作らせる、やらせるものやことが教材であるといった考えに終始してしまう。たとえば、幼児が遊びを始めるとき何らかの動機づけがある。そのため、学生は、幼児の五感に訴えるような教材を用意する。しかし、あくまでも幼児にやらせるための刺激物として示すことが多い。そのため、学生はその教材を媒介とした幼児の側に立った遊びの面白さまでは考えない。また、幼児の遊びは、動機づけだけでは継続しない。幼児が夢中になるためには、遊びの中に何らかの達性感の連続があることが必要と考える。しかし、学生は、動機づけを終えるとその後は、成果物として形にさせようと、一方的に教え、与えることになる。これらのことから、教材研究は、その日その時間に幼児にさせる成果物で終わってしまう。保育評価も、できたか・できなかったか、上手か・下手か、などといった観点にとどまり、教材研究から遊びを導き保育内容に示すねらいまで見通した保育を組み立てることはなかなかできない。



3) 既成教材を分析する生活経験や知識の不足

学生のアンケートの中に、考えられない (アイデアがない) などという者もいた。ほとんどの学生は、教材を選択する際には、授業 (音楽、美術、体育等の保育技術に関する科目) やインターネット、保育雑誌から選ぶことが多い。これらの教材や方法は、様々な技術や経験のある専門家が考え完成された教材であり、その方法や教えられた通りに幼児にやらせようとする。また、幼児と共に活動する際には、教材そのものの理解と幼児が主体的に活動できるような道具や物に工夫が必要となる。しかし、学生の日々の生活では、工夫や考えて物を扱う機会が少ない。そのため、工夫の視点や応用の方法など基本的知識から教えなければ、どこから考えていけばよいかわからない学生も少なくない。

4) 幼児と教材を共有し共感して活動する(遊ぶ)難しさ

学生は、実習で幼児と共に生活し幼児を理解することの大切さを学ぶ。しかし、次から次に動く多くの子どもたちに対し何をしたらいいかわからない。たまたま近づいてきた子どもに合わせて動くか、未熟な技術のために、指導保育者のようにいかない焦りから、何をしたらよいの

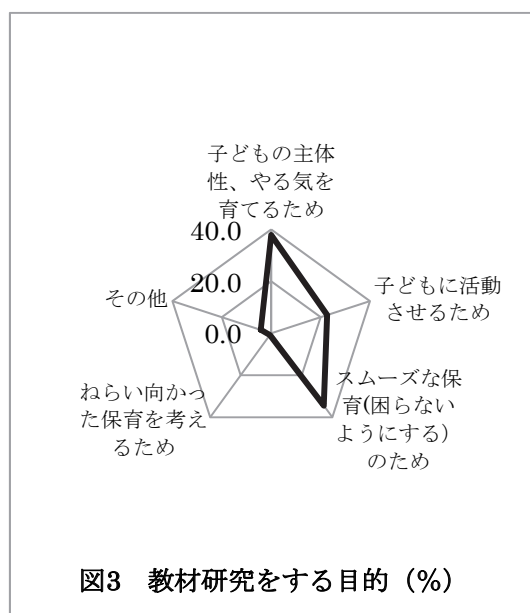


図3 教材研究をする目的 (%)

かわからなくなる。

教材研究の目的を見ても、子どもの主体性ややる気を育てるためと言いながら、自分の考えた活動がスムーズにいくように、あるいは、子どもにどうしたら自分の提供する保育をしてくれるかが中心となり、子どもとともに活動する(遊ぶ)という実践は難しいと考えられる。図3

以上のことから、学生の教材研究は、保育者が子どもにさせるために材料や教具・遊具を準備し、時間内に全員ができる成果物と考えている。幼児教育における教材は、活動そのものであることから、教材を研究する段階で、子どもの視点に立つことにより、教材そのものの扱い方やより豊かなかわり方が見えてくるのではないかと考えた。そして、このことが保育内容と方法の理解になるのではないかと考えた。そこで、保育経験の少ない学生が、事前に幼児の視点から教材を考えておくことにより、保育中や保育後、子どもの内面で何が起きているかをみようと意識の芽を育てるには有効となるのではないかと、また、保育内容や方法について、子どもに寄り添った内容であったかという振り返りの視点も持てるのではないかと考える。

3、教材研究の実践

学生の教材研究の実態から、科目「保育内容指導法」の開講期に幼稚園教育実習（2年次）があることから、保育指導案を立案する中に教材研究の学習を取り入れ、この科目の目的の理解にもつなげたいと考えた。

（1）科目「保育内容指導法」について

<授業形態>

演習

<授業の目的・目標>

学習成果：保育内容・方法、具体的援助の方法の理解。実践的・応用的に活用する力の獲得を目指して取り組む。具体的には、1、幼児教育の保育方法の基本的考え方を理解する2、1の考えをふまえて、保育を組み立てる(指導計画)ことができる3、幼児教育の在り方を多方面から再確認すると共に、ふさわしい保育の内容と方法を考える。

<概要>

保育内容および方法の基本的考え方を学び、保育を組み立てられるようになることを目標とする。授業前半は、実際に指導案を立案していきながら、具体的な保育内容と方法を考えていく。後半は、子どもを取り巻く全体に視野を向け保育内容と指導法を考えていく。

<授業計画>※本研究8コマ分

- 1、幼児教育の考え方と保育方法の基本
- 2、指導計画の意義、特性、指導計画の方法
- 3、指導計画立案①情報から幼児の姿を読む
- 4、指導計画立案②幼児にふさわしい、ねらいと遊びを考える
- 5、指導計画立案③予想される幼児の反応とその対応を考える
- 6、模擬保育 幼児にふさわしい保育を考える(子どもの側と保育者の側の体験)
- 7、指導計画立案④幼児にふさわしい教材の検討
- 8、「ねらい」と「評価」を考える

授業計画1、2では、幼児教育の内容や方法について説明し、3、4、5、6、7では保育教材の研究をおこないながら授業を進める。また、授業時間外も希望学生には一緒に教材研究をおこなった。この時間外指導では8割ほどの学生が参加した。

(2) 保育実践力を育てる教材研究の方法

教材研究がわからない理由に子どもの姿がわからないからが一番であった。このことは、実習中も同様であり、予想される幼児の姿が書けない。予想される幼児の姿とは、保育者の発問等に「いいという」「やりたくない」と言った反応を書くことではない。また、幼児教育において教材は小学校以上の教科に示される教材と異なり、幼児の発達や興味・関心に照らし合わせた遊び(活動)から出発し、何のためにするのか明らかにし、そのねらいに向け、幼児の意欲や問い、工夫、試行錯誤など総合的に引き出さなければならない難しさがある。よって、学生はまず子どもを把握しなければならないと考えるのは当然である。しかし、学生は子どもの何を見ていけばいいのかわからないことから、次の順に従って教材研究をおこなうこととした。

1) 現在の子どもの姿から発達や興味・関心の姿を整理する 2) 現在の子どもの姿からねらい(何のためにするのか)を導く 3) ねらいに最も今ふさわしい遊び(活動)を考える 4) 遊び(活動)のポイント(何を問い、考えさせ、体験させるのか等)を明らかにする 5) 具体的教材や教材の提示方法を考える。

1) 現在の子どもの姿から発達や興味・関心を整理する

現職の保育者の協力を得て、保育を筆者が見学し、幼児の日常の遊びの姿や短期的保育計画(週案等)などインタビューして情報を集めた。これらの情報を学生が実習で使う保育日誌に書き学生に配布する。保育日誌を配布した理由は、実習中、学生は保育日誌を使いながら幼児観察をし、その情報から保育計画を考えることから、学生にとって考えやすいのではないかと考えたからである。

3~4人のグループになり、日誌を読み「情報集めシート」(筆者が項目を作成)の項目に従って、幼児一人ひとりやクラスの情報を書きだした。

<情報集め> (例:5歳児5月)

①週案等のねらい

梅雨時の動植物に親しむ

自分の考えたことややりたいことを伝えあいながら遊びを楽しむ

さまざまな表現(制作活動だけでなく)を楽しむ

②一斉活動の幼児の様子

話を聞き、聞いたように動ける。思ったことを口々に発言する

③自由遊び時間の幼児の様子

簡単なルールのゲームを楽しむ(サッカー・ドッチボール、ただしボールの取り合いなどが多い)

主な解決方法はジャンケンであり、話し合うというところには至っていない

④幼児の興味・関心や人間関係の様子

カエルやダンゴ虫など捕まえる

水や土を使った遊び体を思いっきり動かして遊ぶ

好きな友達など安定している。皆でやろうという気もちができ始めているが、まだうまく意思の疎通が取れない時がある

⑤生活習慣(排泄・食事・着替え等)

ほぼ完成（食事時間1時間）、しかし、手洗いなど適当になっている

⑥はさみやのり等の教具や道具の使用状況

はさみ、のり、クレヨン、セロファンテープについては日常的に上手く使える
絵の具、サインペンなどいろいろな教具も上手く使えるようになってきた

⑦運動能力の様子

一人縄跳びができるようになってきた

⑧子どもの絵や作品などの様子

仲良し同志に、似た絵が多い

手の指や足がしっかりある絵。上から見た図など空間認識がある

⑨担任の幼児やクラスに対する今の思い

年長になり、何でもやりたい気持ちが高い

一人一人の思いを大切に育てたい

⑩幼児の個人情報(障害等)

うまく伝わらないと怒鳴ったり手が出てしまう(A児)

⑪その他

2) 現在の子どもの姿からねらいを導く

① 現在の子どもの情報と年間計画、月案、週案と照らし合わせ、今育ちに必要な事項を考える。

例：5歳児5月

○領域「健康」現在の子どもの姿と今必要な事項（情報②⑤⑦より）

- ・安定感(信頼関係)を大切にし、安心して自己発揮できる環境を作る
- ・食事の時間などもう少し短くする
- ・基本的な生活習慣の確認(手洗いなど)をする
- ・晴れ間など戸外で体を動かして遊ぶ

○領域「人間関係」現在の子どもの姿と今必要な事項（情報②③④⑧より）

- ・安心できる場所や仲間ができているので友だち関係を広げる
- ・他者に対しての思いはあるがうまく伝えるなど子ども達だけではまだ難しいので援助していく

○領域「環境」現在の子どもの姿と今必要な事項（情報①④⑥より）

- ・動植物に興味を持っている
- ・この季節ならではの動植物に親しむ

○領域「言葉」現在の子どもの姿と今必要な事項（情報②③より）

- ・話を聞き動くことができる（さらに聞く力をつける）
- ・思ったことを言葉にして伝えあう楽しさ

○領域「表現」現在の子どもの姿と今必要な事項（情報②④⑥⑧より）

- ・物や絵を見てまねて描くことを楽しめるようになってきている
- ・いろいろな道具を使い表現する
- ・感動したことや経験したこと等絵に描く

② 指導案（本時）のねらいを考える

幼児教育における保育内容は領域ごとにねらい及び内容が示されている。しかし幼児教育は、幼児期の子どもの発達の特徴から、それらを総合的に、遊びを通して行うものである。よって、このねらいの設定は非常に学生にとって難しい。子ども一人ひとりの姿やクラス全体の様子、季節や遊びの状態から何を（どんな遊びを）何のためにするのかを考えていかなければならない。しかし、子どもの姿を書きだすことにより、それぞれの今必要な事項や、活動の過程で期待される事項が見えてくる。学生は、子どもの姿からねらいを考えた。

<ねらいまでの考え方 <例>>

現在の幼児の姿と保育の見通し

梅雨ならではの遊びをさせたい

動植物を採集、飼育している。また、興味を持って観察したり、試して遊んでいることからさらに継続発展させたい

同じ目的に向かいながら友だちと方法など考えを伝えあえたらいいのではないか

いろいろな道具を使ってみたらどうだろうか

活動後の片づけなどみんなで協力させたらどうか



本時のねらい：道具や方法を工夫して色水を作る

継続遊び——提供遊び

カエルとり 草花摘み カエルの玩具（作る遊ぶ）小動物の飼育 水遊び 押し花づくり 等々

ねらいを達成するために最もふさわしい遊びをたくさん出しその中から一つ選ぶ。

遊びの面白さを幼児の視点で考える

4) 遊び（活動）のポイント（何を問い、考えさせ、体験させるのか）を明らかにする

幼児の行動や認知の姿を想像しながら、制作は作る、動植物は実際の物に触れ観察する、5感を使って遊ぶ、ゲームはおこなう、音楽は楽譜をよむ・弾く・歌うなどおこない、教材（遊び）の面白さ（魅力）を書きだす。

授業では、2名の学生の模擬保育をしてもらった。他学生は、1回ずつ子どもとして保育を受ける、保育者の立場で指導案を見ながら観察するとおこなった。子どもとして参加した学生は保育を受けた後に、導入—展開—まとめ—全体を通しての流れに沿って自分が感じた遊びの面白さや幼児の気持ちを考察してもらった。保育者として観察した学生は、指導案に従って保育の技術や話し方などのタイミングについて「私だったら」どうするかを考えた。

○学生自身が遊びの楽しさを知る（素材研究）

例：色水遊び

・絵具と草花どちらが面白い

—いろいろな色が出るのは絵具だが、草花を集めたり、花の色と色水が異なったりすることから意外性がある。絵具の場合には、絵の具と水の量などで透明感など異なる楽しさはあるが、草花の場合

合には、潰したりたたいたりする等、色を出す方法を考えるという楽しさがある。

- ・草花がたくさんあると嬉しいがどうしたらいいか
一子どもとともに目的を持って摘む。花屋の廃棄の花を集めるなどしたらどうか
- ・綺麗な花を磨り潰すことについて、子どもの気持ちはどうなのだろうか
一実際にやってみると、草花の微妙な色や形に興味や発見がある。美しいと感じることが草花を大切にすることになっていくと思った。花摘みなど必要以上に採らないことを伝えたい。
- ・磨り潰す道具等について

一様々な身近にあるものを提供する（子どもにたくさん使ってもらえるから）ことも大切だが、やり方も子ども自ら発見していく楽しさがある。出来た色水は透明の容器に入れると綺麗なので意欲がさらに湧く。たくさんやりたい。何回もやりたい。様々な花で試したい。水を入れるタイミングはいつが最も良いか等、遊びの面白さの理解が膨らんだ。学生にとって素材研究は、子どもに何を体験させたいのか、どんなことを問い考えさせたいのかが見えてくるとても有意義なものであると考える。

5) 具体的教材や教材の提示方法を考える

ねらいに向かっていく幼児の姿（全体と個の姿）を想像し保育の流れを考える。より具体的な環境構成・発問、教材の提示方法など考え指導案を作成しながら整理していく。

幼児が興味や好奇心を持つか・幼児が試行錯誤をするか・幼児が工夫をするか、また工夫が可能か・過去の経験や援助があれば遊びが継続するか、教具や道具を扱う力量はどの程度か等と考える。また、教材の工夫により幼児の意欲等が大きく異なることを想像し、大きさ、数、色、形、動きなど試行錯誤し教材を準備する。

以上、教材研究をおこなった。また、同時に6月に実施される実習園とも連携を取り、事前打ち合わせでは、学生が実習で担当する場面の保育指導案を持って行き、担当保育者の助言をいただいた、また、それに伴うできる限りの幼児の育ちの情報提供もお願いした。事前打ち合わせ後には、学生はお互いに協議等しながら、保育案の教材研究をおこなった。教材研究について学生から教員に相談があった場合には、個人指導もおこなった。

4、教材研究学習と保育実践について

(1) 幼稚園教育実習後の学生の教材に対する意識の変化

教材研究学習を通して実習の準備をし、2週間の幼稚園実習終了後、教材研究についてのアンケート調査をおこなった。アンケート内容は、実習を振り返り、①教材研究に対する意識の変化 ②教材研究をおこなったことによる保育の変化とその理由 ③教材研究をおこなったことによる子どもに対する気持ちの変化とその理由を記述してもらった。

①教材研究に対する意識の変化について、変化があったと感じた学生は、122名中114名回答。変



化があった100名、変化がなかったは12名、無回答が2名であった。

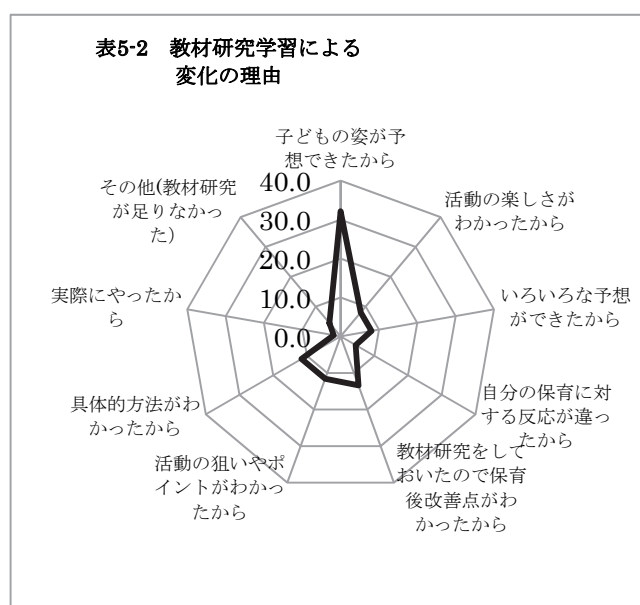
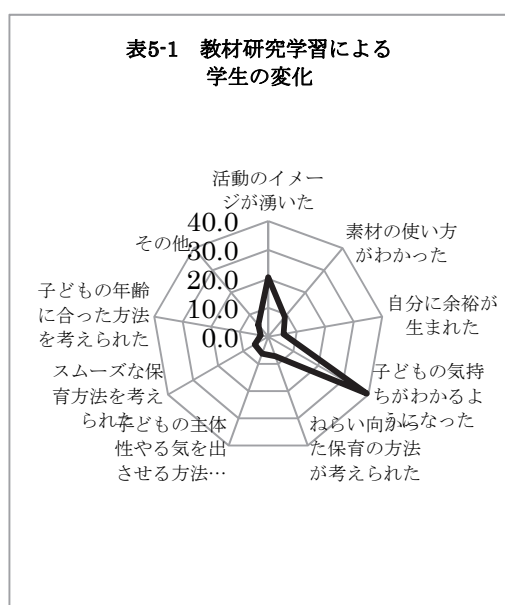
実習後の教材研究の変化では、教材研究をする過程で常に子どもの視点から保育を考えることで、子ども姿を想像することができるようになった。この想像することにより具体的な保育の方法が導かれた。また、事前に予想したことにより、実践後に保育改善につながったという記述もあった。図4

これらのことから教材研究をおこなうことにより、教材が保育活動の媒体から、幼児にとって継続する遊びとなった時、その教材は最も幼児に適当であるとする。遊びが継続するという事は、幼児の内面は、内発的動機により、見る・感じる・気づく・試す・考える・わかるといったことが、豊かに生き生きと活動している時と考える。この適当な教材を選択するために、①学生自身が教材を使い遊ぶ ②学生にある情報と照らし合わせながら、遊びの動機づけやどうしたら遊びが継続するか等考える ③教材を使い、どうしたら幼児にとって面白い遊びとなるか考える ④幼児の内面を想像し、具体的環境構成や援助の方法を探ることが重要な手立てとなると考える。

(2) 教材を具体化することの環境構成と援助の変化

②教材研究をおこなったことによる保育の変化とその理由では、122名中114名回答。変化があった112名、変化がなかったは2名であった。

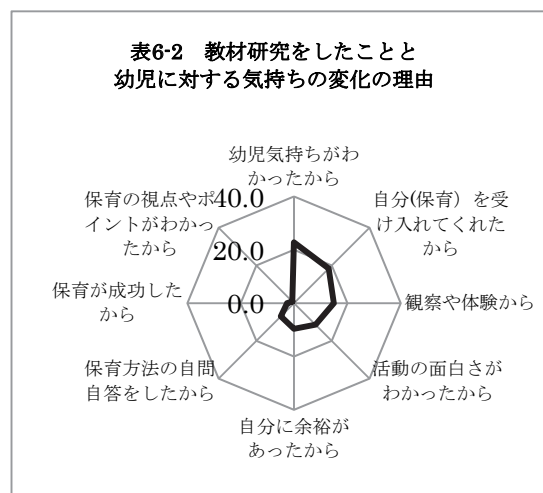
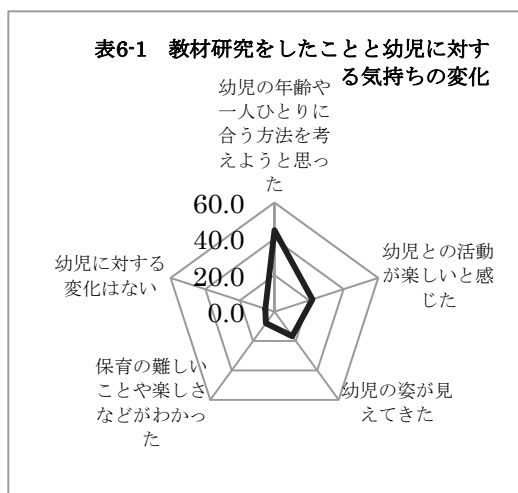
子どもの姿がわからなくても、子どもの予想される姿を保育内容と照らし合わせながら想像していくことにより、子どもの気持ちや姿が感じられ、具体的保育方法も浮かんでくることを学生は感じたようである。表5-1 表5-2 子どもの姿を予想することが環境構成と援助となる。保育における援助とは、『保育援助論』においては、「援助」とは、幼児に対し、どうかかわることが可能なか見極めた上で、子どもが望ましい状態に達して欲しいという大人の願いをもって子どもにかかわることである」2)と述べられている。学生においては、教材と子どもがどうかかわることが可能なか、あるいは可能となるかを教材研究から導くことが重要と考える。



(3) 子どもの意欲・心情・態度の姿に対する学生の意識の変化

③教材研究をおこなったことによる子どもに対する気持ちの変化とその理由では、122名中114名回答。変化があった108名、変化がなかったは6名であった。記述内容を見ると、教材研究をするこ

とで活動の楽しさがわかった、教材研究により子どもの気持ちがわかった(感じられるようになった)、そして何よりも、教材研究をおこなうことで予想する幼児の姿と異なっても学生自身に余裕があり、幼児に寄り添った対応により自分の保育を受け入れてくれたと感じ、さらに学生自身が幼児を受け入れようとする相乗効果が生まれたのではないかと考える。表6-1表6-2 養成段階の学生が実習で責任実習をおこなうことは、子どもがどのように反応するかがわからず大変不安である。その為、学生はできる限り子どもの内面を想像し保育をおこなうが、子どもの内面の変化を実習期間に確認することは無理である。なぜならば、子どもの意欲・心情・態度は、持続的に観察しなければ理解できない。その為、学生は、できた・できない。あるいは子どもがわかったか、やってくれたかが中心となってしまう。しかしあくまでも予想される幼児の姿であっても、保育内容領域の内容を手掛かりに考えて保育を考えておくことにより、子どもにわかるように伝える具体的方法や、子どもと遊びの面白さを共有するための教材研究がとても重要と考える。まず、子どもとともに遊びを共感した喜びから、幼児に対して寄り添い理解したいという態度が覚醒していくのではないだろうか。



5、まとめにかえて

今回のアンケート調査は、学生が感じた実習後の保育や子どもに対する気持ちの変化を記述してもらい、その中のキーワードから分類し傾向を探った。学生の変化は、実習園での指導や子どもとの経験が多くなった等、沢山の要因があると考えられる。しかし、実習準備において教材研究をしたことにより、子どもの前に立った時に保育の見通しが持て、心に余裕が生まれ、子どもの言動を受け入れられるようになったということは、養成期の学生の保育内容指導法を理解する手立てとして、教材研究は有効な方法の一つになると考える。

幼児教育の方法は見えない教育と言われるように、子どもの内面を理解し、子どもから活動を引き出し、意味のある活動になるよう具体化する方法を考えることであるが、保育経験や知識が少ない養成期の学生には非常に難しい課題である。しかしこの点においても、事前に子どもの内面を想像しながら教材研究をおこなうことにより、遊びの楽しさ、試行錯誤したくなる気持ち、物事の原理・原則など発見する瞬間等、を学生自ら体験ができる。この体験から子どもにとって魅力的な活動となる素材や方法の提供ができるようになる。子どもに寄り添った魅力的な活動は生き生きとした保育となる。子どもが生き生きとしている姿は、活動の提供者である学生自身も幼児に受け入れられている喜びと

なり、幼児を理解し子どもの立場に立った、より良い保育内容を具現化する原動力となるのではないかと考える。

また、実習園との連携の一つとして、情報収集、園が求めているねらいとの整合性、活動の魅力についての考察等、教材研究プロセスを今回のように文章化していくことにより、実習がより実践的な教育の場となると考える。また、そのようなコーディネートが養成校に求められているのではないかと思う。

引用文献

- 1) 日本教材学会「教材事典 教材研究の理論と実践」2013 P571
- 2) 小川博久「保育援助論」生活ジャーナル 2000 p5

参考文献

- 高橋裕子、大瀧ミドリ、今村聡美「幼稚園教育実習における事前準備の習熟度と事後の自己評価について―「教材研究」「子どもの気持ちの読み取り」「満足度」の観点から―」東京家政大学研究紀要 2011
- 高橋裕子「幼稚園教育実習における学生の学びに関する一考察―幼児理解に着目して―」藤女子大学紀要 2008
- 山田秀江「幼稚園教育実習における保育実践力の学びに関する一考察―責任実習の実践報告から―」四条畷学園短期大学紀要 2012
- 文部科学省「幼稚園教育要領解説」フレーベル館 2008
- 日本教材学会「教材事典 教材研究の理論と研究」2013
- 小川博久著「遊び保育論」萌文書林 2010
- 岡田正章・森上史郎監修「保育に生かす教材・遊具」第一法規 1977

Summary

In order to realize the content of early childhood education, research on teaching materials is important. I think that studies on teaching materials can enhance motivation to learn and improve problem solving skills for children's learning and safety of life. I think that it is suitable for understanding children's internal problems and problems that children need during the training period of students studying early childhood education. Based on the above, from the change of students before and after kindergarten education ① Research on teaching materials to understand young children ② Study the effectiveness and problems of teaching materials research to materialize the content of kindergarten education.

key word

Kindergarten teaching practical training, Teaching materials research, Infant Understanding, Child care content, Childcare practical skills